

裏庭も乏しくなりてノコンギク一むら残し秋深みゆく

(R)

秋野菜と秋ソバ・・・

十六日の大石田祭、最上川花火大会が終わると大石田は、急に秋風を感じるようになります。スイカ畑は出荷を終え、かたづけられて、秋野菜の種まきが始まります。青菜、大根・白菜・蕪などは、冬越しの漬物や保存用にします。冬支度の準備がはじまっているのです。

農家の畑では、秋ソバが芽を出し、すくすくと育っています。大石田の蕎麦の品種は来迎寺在来、次年子の地ソバなどですが、九月上旬に、いつせいに白い小さな花が咲き出します。冬は雪深く、夏は暑いこの辺りの気候(寒暖の差)が豊かな風味を育てるようです。大石田では、昔から農家のご婦人がたが、祭りの後振る舞いなどとしてお客様へ蕎麦を打つてご馳走してくれました。蕎麦は、挽きたて、打ちたて、煮たてと云われ、おいしく頂くには、手間暇をかけるおもてなしの心が必要です。

縄文時代栽培されていたソバはむきそばとして、鎌倉時代に挽き臼が伝来すると、蕎麦がきや水団など色々に食べられました。水で溶いただけで食べられるので、五穀断ちする修験者の携帯食だったことも。蕎麦切りが流行した江戸時代、ようやく庶民の食べ物になりました。また七月十五日で収穫できるソバは、飢饉対策の有難い穀物でした。・・・

綿の柵開く(わたのはなしべひらく)

8月23日～8月27日頃

夏水仙が庭に咲きました。うっとうしいように茂っていた葉が消えて、小さなつぼみが出たと思ったら、一週間程で茎が長く伸び薄ピンクの花がつけました。

似ている花にオレンジ色の「キツネノカミソリ」という野草があります。根に毒性があって、ネズミやモグラ除けに○花を触った後は手洗いのこと。(み)

天地始めて肅し(てんちはじめてさむし)

8月28日～9月1日頃

二百十日の頃。昭和42年8月28日、山形県南部をおそった集中豪雨(羽越豪雨)は、29日30日と最上川の大洪水となって大石田町をおそい、町有史以来の大被害を残しました。この年は大豊作が見込まれ、喜びの収穫が目前に迫っていましたが、一夜のうちに夢となってしまったのでした。(れ)

禾乃登る(こくものみのる)

9月2日～9月6日頃

秋の気配漂い、いよいよ収穫の秋到来。稲穂は黄金色の頭を垂る。今の時期、稲刈り前の作業として、畔草刈り、稗抜き。秋野菜の手入れ、大根等の種まき。野には、オトギリ草、萩、リンドウ等。山ではカノカ、モダシ等出る頃かな。虫の音も稲子・赤トンボも沢山いたけど、今は少なくなって淋しい。(熊谷ヨエ子)



横山のソバ畑[来迎寺在来]

読書会だより②

大石田の処暑のころ

七十二候より

大石田町立図書館

朝夕の涼しい風の中で、秋の虫たちの鳴く声を聞くようになりました。畑では、ソバの芽が出揃い、農家では、秋野菜の種まきが始まっています。また、夏休みが終わり、小中学校の運動会の練習の音が聞こえてきます。私たちも一緒に、元気な二学期が始まります。

(い)